



館越山にはきつねにまつわる昔話があります

# たてごし

発行  
八戸市立第一中学校  
PTA広報委員会

目次

P1・PTA合同反省会にて  
P2・特集 作ろう！家庭のルール  
PTA活動通信局  
P4・知ってますか？一中のこんな  
場所 美術準備室  
P5・私の中学時代  
P6・一中写真館



## 一年間お疲れさまでした PTA合同反省会

去る二月十日、八戸パークホテルでPTA合同反省会が開かれ、今年一年間の反省と来年度への抱負が語られました。会に先立ち、葛西PTA会長から「子どもたちの充実

した学校生活に結び付いた。来年度につなげていきたい。」とあいさつがありました。各委員会の報告を抜粋します。

### ◆総務委員会

今年の文化祭の準備は例年より一日少なかったが、みんなの協力で成功しています。一年間楽しく活動することができました。

### ◆生活指導委員会

巡回指導のシフトを組めたことや、バザーでは部活動委員会と合同で行うという、初の試みが良かったです。

### ◆広報委員会

皆さまのおかげで、昨年に続き県PTA連合会広報誌コンクールで入選することができました。情報提供や記事の御協力等、ありがとうございます。

### ◆教養委員会

企画内容が、家庭生活や子どもたちに活かされているか悩みながら、親の学びや気分転換になつてくれればと思いい活動しました。来年度は、土

曜日開催も視野に入れたと思います。

### ◆環境厚生委員会

初めての試みとして、花壇へチューリップの球根を植えました。春に咲くのを楽しみにしていただけだと思います。環境整備活動ではたくさんの方の御協力に感謝しています。

### ◆部活動委員会

親睦ソフトバレー大会を例年の八月から九月に変更して開催しました。日程については、来年度も話し合つて決めたいと思います。バザーは、生活指導委員会と合同開催して、よかったです。

### ◆一学年委員会

学年企画で、「ピザ焼き」をグラウンドで行い、多数の参加の中、楽しくおいしい時間を提供できました。その後の活動がなかったため、来年度はもう少し考えたいと思います。

### ◆二学年委員会

学年企画で「流しうどん」を行いました。子どもたちを楽しませようと、竹を割るところからの作業が大変でした。来年も楽しく活動します。

### ◆三学年委員会

六月の懇親会では、修学旅行のDVDを見ながら楽しい

時を過ごしました。今、卒業に向けて活動しています。楽しいまま卒業していきます。

### ◎学校図書支援プロジェクト

学校放送で本の紹介をして、図書館に足を運んでもらうようにしました。文庫本の入る本棚の購入を検討してほしいです。

### ◎情報発信支援プロジェクト

ブルースカイの発行部数を減らしたが、問題はなく、委員の負担は軽減できました。行事の情報収集は、もう少し工夫が必要です。

### ◎学校行事支援プロジェクト

青葉湖ウオークでは、天気が良すぎて子供が元気がまましました。とん汁スタッフは増やした方がいいと思います。

### ◎環境整備支援プロジェクト

八月の環境整備では、たくさんの方のお申し出や御協力により、当初予定より広範囲に砂利を敷くことができました。来年度は要望を聞きながら、準備に時間をかけて行いたいです。



今年購入した一中の応援旗。真紅の旗です。

親世代とは使い方が違う!モバイル関連のトラブルから子どもを守るために

# 作ろう! 家庭のルール ~そして学ぼう親も子も~

## 特集

携帯などはとても便利なものですが、操作するだけでなく、うまく使いこなしているのでしょうか。子供の携帯などの管理責任は、購入した保護者にあります。「子どもの方が使いこなしているから」などと言っていられません。子どもが安全に正しく利用できるように、保護者としてどんな取り組みをすればいいのでしょうか。

高校生や社会人のお子さんを持つ保護者を交えて話し合ってみました。

### 大人も学ばなきゃ?

**A** 文科省では、学校への携帯機器の持ち込みを禁止しています。しかし、最近の子供たちの環境は、私たちが子どものころと違って、パソコンや携帯端末などのモバイルと呼ばれるものが身近にあります。1学期からの特集を通して、心配なことや気づいたことはありませんか。

**B** 携帯を持たせなければ大丈夫というのではなく、ゲーム機や音楽プレーヤーなどもモバイル端末の一種で、携帯と同じようにLINEなどができるとわかり、びっくりしています。

**C** ゲーム機に向かって何かしゃべっているのを見た時は、この子大丈夫かと(笑)。

**B** みなさんから教えてもらったり、調べたりしていなかったら、全く知らないところでした。親世代がそういうものに疎いんですね。

**D** 私たちが若いころはポケベル(懐かしい!)だった。語呂合わせや暗号で特定の相手にメッセージを送る。それがこの二十年ぐらいの間に急速に発達して、不特定多数かもしれないLINEやTwitterにFacebook



### これからの社会はインターネットを使いこなす力が 必要になると考えられます

- ◎ネット検索で調べる力
- ◎膨大な情報から取捨選択する力
- ◎インターネットのコミュニケーション能力
- ◎ネットトラブルに対処する力
- ◎個人情報や会社の情報などを管理し守る力



そのためにも家庭でルールを作り、マナーを学び、スキルを向上させましょう

#### 【例えばこんなルール】

食事や勉強の時は触らない	利用する場所・時間を決める
大事なことは直接伝える	即返信を期待しない
	ルールを守らなかったら親に渡す
	個人の写真を勝手にアップしない
自慢話や人の悪口を書き込まない	歩きスマホはしない
個人情報やネットにアップしたり人に渡したりしない	モバイルを持たない子への気遣い、配慮
	ネットで知り合った人に写真を送らない、会わない
	図書館や病院など使ってはいけない場所で使わない

### 公開「交換日記」

ば自分自身も傷つくことになる。

**B** 私は、WiFiを飛ばす、というごっこなのではないか、と。ような専門用語すら意味が分かりません。

**E** モバイルの使い方が分からなくても、ニュースになるぐらい問題が起る可能性があるものだという事は分かる。自分の子どもが巻き込まれないように、そして、相手を巻き込むことのないようにするのは、親の責任だと思ふ。意図したことなく、相手を傷つけることがあるし、そうなら

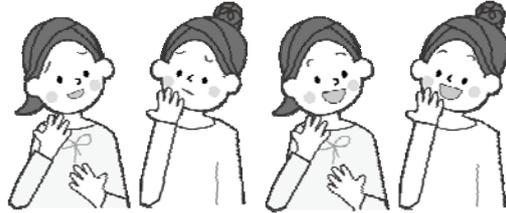
**C** 先日、アメリカの十四才の少女が「ネットでのいじめを根絶したい」と開発したシステムが話題になっていてという記事を読みました。アメリカでは五十二歳の若者がネットいじめを経験していることがわかり、調査の結果、十二歳から十八歳までの若年層が「ネットいじめ」となる発言をしてしまう率が高いことがわかったそうです。そこで、そのシステムを使って相手

# 家庭での取り決め

露目している交換日記みたいなものということ？

を侮辱するような書き込みをしようにしたとき、画面に「本当に投稿しますか？」というメッセージが表示されると、九割以上が投稿を取りやめたそうです。今後、そのような機能が搭載されたキッズ携帯が、日本で発売されるとニュースになりました。

これって、時間がたってから冷静に考えるとわかるけれど、SNS上で会話がポンポンと重なっているときには判断ができないということじゃない？



**B** 直接会話しているときとは違う。同じ言葉でも、SNSでは相手の表情や、言葉の微妙なニュアンスがわからない。だから誤解が生まれることがあると思う。  
**E** 一度書き込みしたこと、後から文字を削除できたとしてもなかったことには出来ない。人に見られて困るような書き込みをしないこと。仲間内だから大丈夫というのではなく、広く公開しているという意識を持つことが大事だと思う。

**B** 分かりやすくいうと、みんなにお披露目している交換日記みたいなものということ？

**C** それって怖いことだね。知識がないと、起こるかもしれないことが予測できないんだね。

**A** 高校生になると、部活の連絡網や、学校によっては休校などの連絡がSNSという場合もあります。例えば中学生で利用することがなくても、今後持つ可能性は100%に近いです。  
**B** 連絡網が！それは知りませんでした。  
**E** 急に携帯などを与えて好きなようにさせるのは、やってはいけないことなどの知識がないままにほったらかしにするようなものです。

**B** 大人でも、一緒にいるときに携帯を見ながら食事していたり、LINEが来るとやたらと気にしたりする人がいます。  
**C** すぐ返信しなくちゃ、と思うのか、いつもメッセージを送ると同時に返信してくる人がいて、びっくりする。

**E** それは、依存症の可能性が考えられると思う。大丈夫かな？

私の場合、私が一緒に写った写真を勝手にブログにアップされていた。前もってひと一言言ってくれれば、と伝えただけけれど。



## 考えよう かぞくみんなでスマホのルール

校長 四戸康雄

近年、子どもたちのメディア環境も大きく変化し、スマートフォン等の長時間使用による生活習慣の乱れや不適切な利用による青少年の犯罪被害、さらにプライバシー上の問題等につながるケースは増えています。これは都会も地方も差はなく、私たちと直接関わる問題だと認識する必要があります。

そういう中で、『たてごし』がこのことを取り上げ、自分たちの問題として特集して下さったことに敬意を表するとともに感謝申し上げます。生活の利便性が高まった反面、様々なトラブルが発生している事実から、スマートフォンなどの使用について、見直しを図ることは喫緊の課題です。このような現状に鑑み、八戸市中学校長会では、中学生にスマホ・携帯等は必要ないと考えております。

今後は家庭や地域と協力し、子どもたちの情報モラルの育成に取り組んでまいります。

**D** 夜、ひと段落してからゆつくりとPCを開いたり携帯をいじったりするけれど、親も夜遅くまでいつまでもやらないと。  
**B** 子どもにも勉強しなさい、というからには、私たちも勉強しましょう。  
**C** あ、そっち？(笑)  
**D** まずは、大人が子どもの手本にならないと。  
**E** うちでは、夜何時まで、と時間を決めていた。充電は居間で。部屋に持ち込ませない、という取り決めをしている。子どもにも与えるのは親。だから、何かが起こるといふことには親の責任が出てくる。モバイルはおもちゃではないから。  
**D** まずは、大人が子どもの手本にならないと。  
**E** うちでは、夜何時まで、と時間を決めていた。充電は居間で。部屋に持ち込ませない、という取り決めをしている。子どもにも与えるのは親。だから、何かが起こるといふことには親の責任が出てくる。モバイルはおもちゃではないから。



一中PTA活動は、全保護者と先生方、そして地域の方々との大きな輪で活動しています。

三学年委員長  
梶 啓子さん

に伺いました

今年度の活動は、夏休み学習会後に「おつかれーライスの会」、二月に希望進路への合格を祈願して子どもたちへ「開運お菓子」のプレゼントをしました。

そして、最後は卒業祝賀会の準備です。



開運お菓子の袋作り。一枚一枚に気持ちを込めて作業しました。



卒業記念品は時計。各教室で時を知らせます。

子どもたちの卒業を喜び分かち合いながら、楽しい会となるように、卒業実行委員会が頑張っています。

委員同士の楽しいおしゃべりも大切な活動の一つでした。これまでに楽しく活動できたことに感謝いたします。

三年間御協力いただき、ありがとうございました。

## 知ってますか?一中のこんな場所 美術準備室



美術室の隣にある美術準備室。部屋の中の床が段々になっているのを御存知でしょうか。実は、もともとは音楽室や視聴覚室として使われていたそうです。学校はコンクリート壁で音が反響するので、階段の段差部分や壁の一部には、音を吸収するために無数の穴が開いています。天井にはサーキュレーターが取り付けられています。

## 広報隊が行く



平成二十六年「小・中学校ジョイントスクール推進事業並びに地域密着型教育推進事業」 実践研究発表会

主催 八戸市教育委員会

平成二十七年一月十九日に、八戸市総合教育センターで研究発表会がありました。根城中学校と中居林小学校で実践してきたことの発表があり、地域密着型教育の成果を実感しました。

講演では、「地域とともにある学校づくりの推進〜みんなで支え、みんなで育て、みんなが育つ八戸の教育をめざして〜」と題して、福島県田村市立緑小学校の安齋宏之校長先生のお話を伺いました。「子どもを変える」ではなく、「大人が変わること」を唱え、学習支援や行事サポートなどで地域や保護者が直接子どもたちと関わりを持つことで、子どもが大人と関わり、親は子どもと向き合うようになるそうです。結果、子どもたちの学力の向上も見られたそうです。



世界一働き者の日本の教員は、一般企業で働く人より疲労度が三倍であるというデータとともに、二〇四〇年までに青森県の四十市町村のうち、三十五市町村が消滅する可能性があるとデータが出ています。ものすごい早さで、人口と子どもたち、そして都市まで減っていくのです。だからこそ、社会総がかりで、地域も家庭も一緒になって、環境の充実を図っていかねばならず、ますますコミュニケーションスキルが必要であることを熱弁していました。



### 私の中学時代

〜今につながる私の中学時代〜

## 白戸栄治先生

私の母校、弘前市立第四中学

校は、当時、全校生徒千二百人の学校でした。ひと学年約四百人、学級は約四十人。教室がとても狭かったのを覚えています。

当時夢中になっていたのがガンダム（ガンダムのプラモデル）とボーリング・ゲームでした。毎週のようにサンワボウルやハイローザに自転車で行きました。

学校の成績は決して良いほうではなく、強いてい



えば国語が得意でした。休み時間は、同じ趣味の男子とテレビの話や手作りのゲームをして盛り上がりつつありました。部活動は、小五から始めた剣道部でした。一つ上の後藤先輩から「まじめ」というあだ名をつけられました。部長でしたがあまり強いわけでもなく、もっと頑張ればよかったと思って

います。

二年生の秋から生徒会長になりました。たくさん仲間や先生方に支えられ、何とかやり遂げることができました。失敗や後悔もありましたが、すべては「自分を知る」ための良い経験になったと思います。

この「自分を知る」ということは、私の生き方を決める大きな要素となっています。教師としての在り方に悩んでいた時、「もともと自分はこの道だから」と考えることによって、迷わず進むことができました。

私の中学時代。今でも忘れられないこと。それは、最後の文化祭。生徒会だったために、恒例のフォークダ、で片思いの子と踊れなかったことです。



### Let's コミュニケーション

親世代と子ども世代では言葉の表現がいろいろです。食卓の話題にどうぞ。

#### ☆会話中の若者言葉

「わけわかめ」

みそ汁に入れると美味しいわかめのことではありません。「わけが分からない」という意味で会話特有の言葉です。実は、すでに1980年代に流行っていて、死語辞典に載っています。再ブレイクです。ちなみに三陸ではわかめの株を分けてあげることを「わけわかめ」というそうです。

◆八戸弁では「わけわがんね」。

つぶやくように眉をひそめて言います。

## 昔、あったよね!?



### 【学生カバン】

中学生になったら教科書等を入れて持ち歩いていた学生カバン。サブバックぐらいの大きさだったでしょうか。今では高校生も持ち歩かなくなり、カバン店にも見当たりません。

【学生カバンは憧れでしたが、自分がちょうど入学の年からリュックに代わり、がっかりしたことを覚えています。(保護者談)】

安全面への配慮から両手を空けたほうがいいということでリュックに変えた学校があって、徐々に広がったのではないのでしょうか。大学を卒業して八戸に戻ってきたときには、市内の中学生はリュックだったような気がします。

(四戸校長談)

新人のころで、はっきりと覚えていませんが、昭和50年代中ごろに学生カバンからリュックへと切り替わったと思います。

(木村康子主任談)

### これでいいのか青森県

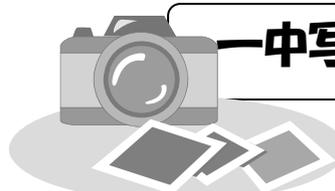
マイクロマガジン社

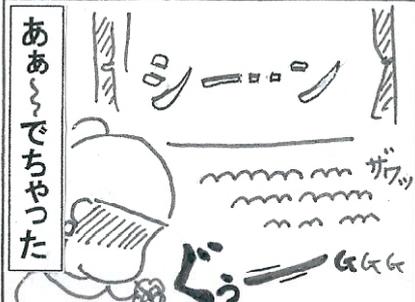
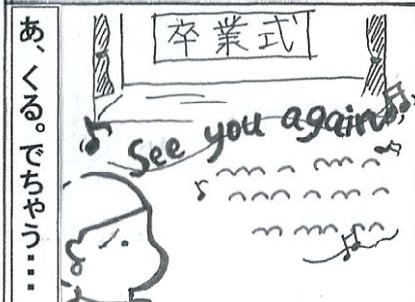
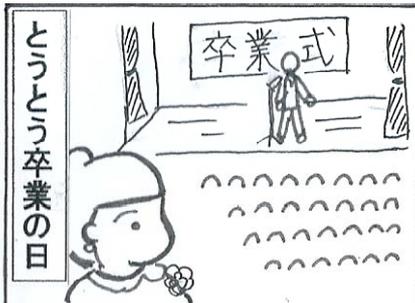
編者 鈴木士郎・佐藤圭亮



昔から青森を二分してきた南部と津軽。争いの元凶や人の気質などのただの青森あるある話だけ、で終わりません。「共に青森県を盛り立てよう」と述べた一冊。でもね、「津軽は最後の一つを残す」って、いやいや「南部の一つ残し」って言うから。

あゝ中学生   
【食育】

 一中写真館



第一中学校が「平成26年度優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰』を受けました。これは地域密着型のモデル校として始まってからこれまでの7年間の活動が評価されたもので、2月10日開催の受賞を祝う会で「この受賞を通過点として、これからも御協力と御指導を賜りたい」と四戸校長が述べました。

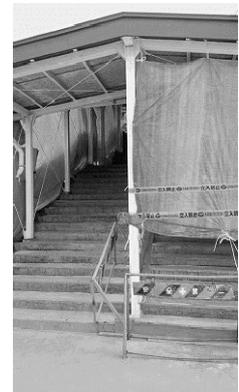
学校支援プロジェクトでは、卒業生から感謝の言葉を書いてもらおうと、手作りのメッセージカードを作成しました。



卒業式には体育館入口に飾ります。



2月下旬、PTA環境委員会が植えたチューリップが、早くも芽を出しました。春の訪れはもうすぐです。



生徒玄関へ続く階段の補修工事と玄関サッシの交換をしています。工事は卒業式までに終わる予定で、3年生は新しい階段から新しい世界へと巣立っていきます。

子どもがお世話になるからには何か役に立ちたい、とPTA広報に関わり六年が経ちました。この間、子どもを取り巻く環境が大きく変わったと感しています。その一つは、LINEなどのトラブルが急増していること。これは一中生も例外ではありません。無知から起る事柄は、予想出来ないことが多い分佈です。今年一年間の特集がお役に立ちますように。  
もう漫画の締め切りに追われることはありません。  
皆さま、ごきげんよう。  
(丁)

2月3日立志式が行われ、2年生174名が、自ら決めた志を掲げ、自信を持って発表しました。校長先生から、立志式のテーマ『継続』を「線路は続くよどこまでも」の歌になぞらえ、「不可能と思えることでもまずスタートすること。そして少しずつでよいからやり続けること。」とのエールをいただきました。



**卒業生の保護者の皆さまへ**  
卒業式当日、保護者控室に3年生の卒業制作の水墨画を飾ります。式前にぜひ、お子さんの作品を御覧ください。  
◆1組・2組:美術室 ◆3組・4組:第1理科室 ◆5組:第2理科室